

## 鳥取県水産試験場からのお知らせ

### マアジ加入量調査結果速報

鳥取県水産試験場では日本海区水産研究所、西海区水産研究所および島根県水産技術センターと共同で、マアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたのでお知らせします。本調査結果はホームページにも掲載しております。

<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=101110>

#### 結果の概要

- マアジ幼魚の採集量は少なく、適水温と考えられる水温帯も狭かった。
- 今年のマアジ幼魚の加入量（来遊量の多さ）は、2003年を1とすると0.21となり、調査開始以来3番目に低い値となった。
- 今期のマアジの0歳魚の漁獲量は低調に推移すると考えられる。

#### マアジ幼魚の採集結果と分布状況

2011年5月16日から6月9日にかけて、図1に示す鳥取県西部から長崎県男女群島周辺の海域において、合計99地点で中層トロール網での漁獲調査を実施しました。中層トロール網による試験操業の結果、合計4,588尾のマアジが採捕されました。

図1に2011年のマアジ幼魚と50m深水温の分布を示しました。今年は海水温が低めに推移していたことと、島根沖冷水（14～15℃）の強い張り出しの影響により、マアジ幼魚の適水温と考えられる水温帯16～18℃（深度50m）が対馬から島根県浜田沖の大陸棚上に限られ、マアジ幼魚の大部分はこの水温帯に分布していました。一方、浜田以東では適水温帯が狭く分布も僅かでした。

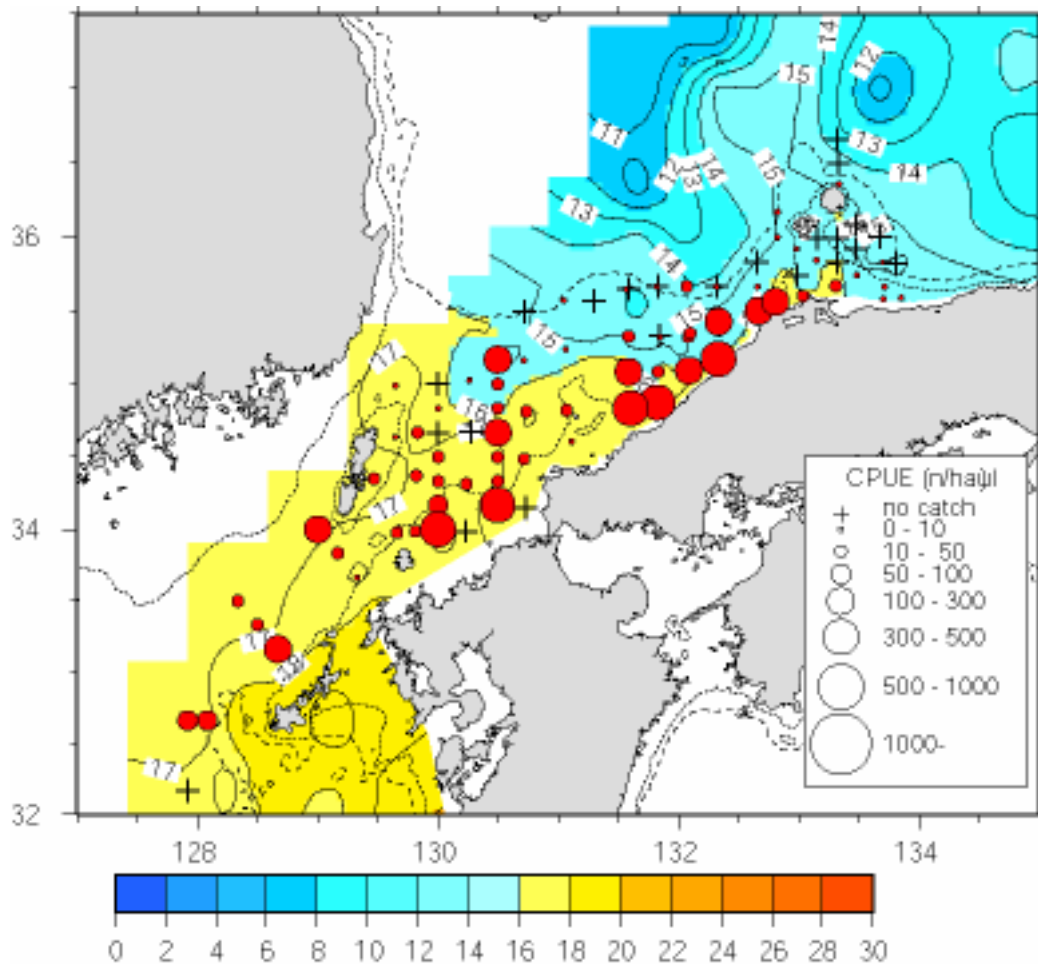


図1 2011年のトロール網調査結果 円の大きさはマアジの採集量の多さを表し、+は採集されなかった点を表す。実線の等温線は水深50mの水温分布を表す。

### マアジ幼魚の加入量と今後の漁況

マアジ幼魚の採集数と水温分布を勘案して求めたマアジ幼魚の加入量指標値（来遊量の多さ）は、2003年を1とすると、今年は0.21となりました（図2の折れ線グラフ）。過去3カ年の水準（1.24～1.92）から大幅に減少し、調査開始以来3番目に低い値となりました。

一方、まき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数は2009年から2010年にかけて増加していますが（図2の棒グラフ）、今期の漁獲量は低調に推移しています。マアジは主に東シナ海で生まれ、対馬暖流に乗り、日本海に漁獲対象として加入すると考えられています。また、マアジはイワシ類やサバ類と異なり、ある大きさ（7～8 cm）になると大きな移動はせず、瀬等の海底地形に依存して分布

すると考えられています。詳しい結果については、後日開催する報告会で説明いたしますが、現時点では加入量は前年よりも少ないものと考えています。

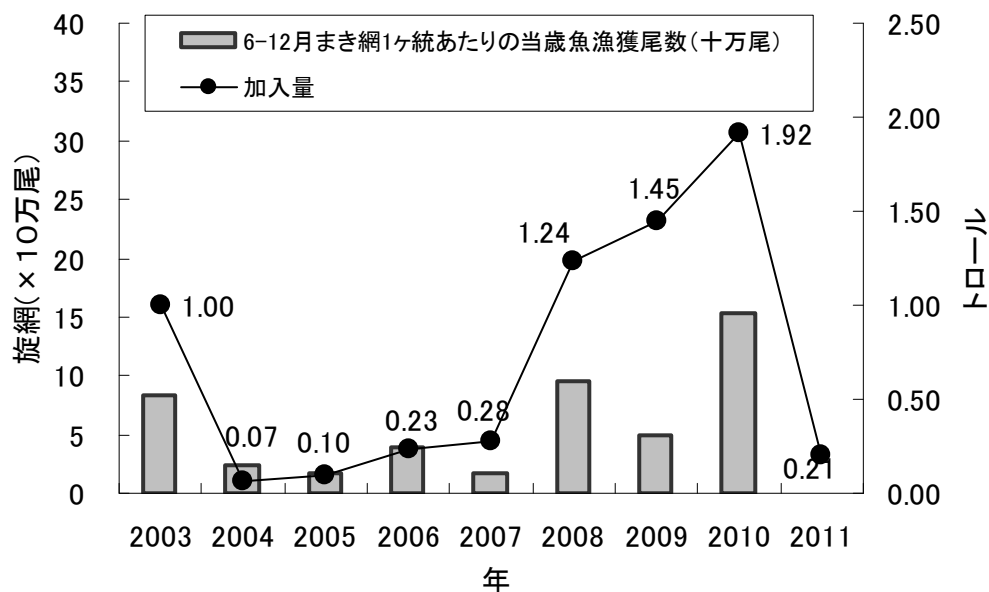


図2 試験操業結果から求めた加入量と境港におけるまき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数（6～12月に水揚げされたマアジ当歳魚の尾数を水揚げしたまき網の数で割った値）の年変化

### マアジの資源回復計画について

マアジは小型魚のうちには獲るより、一年後に成長したものを獲る方が利用価値は高まります。また、小型魚を獲りすぎってしまうと来年以降の産卵親魚の減少につながり、今後の再生産に悪影響を及ぼすことが考えられます。現在、日本海西部・九州西海域におけるマアジ資源等の回復を図るため、当該海域で操業するまき網漁業関係漁業者による小型魚を主とする漁獲があった場合の漁場移動や休漁等による漁獲努力量削減措置を実施すること等を内容とした「日本海西部・九州西海域マアジ（マサバ・マイワシ）資源回復計画」が取り組まれています。このような取り組みによる資源回復が一層期待されます。

担当 志村  
TEL 0859-45-4500